

のカタチ

ます。最期をどう迎えるか、死後どうしたいの画による“男性の生き方を考える講座”「終“今”をよりよく生きる活動のことです。今回気なうちに死ぬ準備をすることで生きるのが分らしい終活を考えてみませんか。（河原）

「終活」講座 講師の紹介

いのうえ はるよ
井上 治代 さん



東洋大学ライフデザイン学部教授（社会学博士）。尊厳ある死と葬送の実現をめざしたNPO 法人エンディングセンター理事長として、「桜葬」墓地を核としたコミュニティ活動を展開している。エンディングデザイン研究所主宰。自著は『最期まで自分らしく』毎日新聞社、『墓をめぐる家族論』平凡社、『新・遺言ノート』KK ベストセラーズ、『墓と家族の変容』岩波書店、『子の世話にならずに死にたいー変貌する親子関係』講談社、他多数。

発表

男女別「終活」知りたいことランキング！

男性	順位	女性
終末期医療	1	終末期医療
最期を迎える場所	2	介護
墓	3	エンディングノート
エンディングノート	4	最期を迎える場所
介護	4	荷物
死生観	4	墓
葬儀	4	死生観
遺言	5	葬儀
遺産相続	5	自分のルーツや家系図
荷物	5	献体・臓器移植など
自分のルーツや家系図	5	遺産相続
献体・臓器移植など	6	遺言

今日はその勉強にきました

子どもに迷惑をかけないように

なるべく自然に人生を終わりたい

参加者のアンケートより

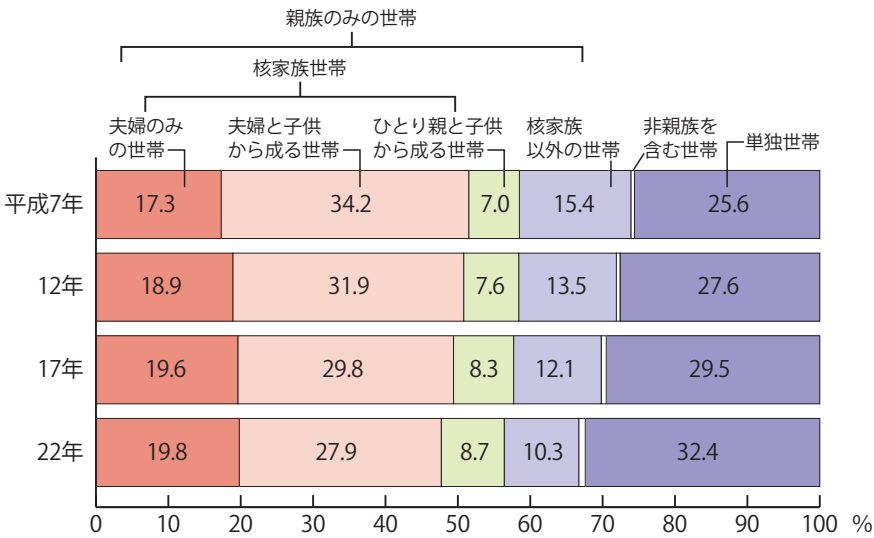
講座の参加者に「終活で興味があること」についてのアンケートにご協力いただきました。左記のランキングは、12項目より興味のあることを上位3つまで選んでもらった結果です。
1位は男女とも同じ「終末期医療」。
2位は女性が「介護」、男性が「最期

を迎える場所」。
これらの結果や選んだ理由について書かれたものをみると、墓や遺産のような「モノ」より、どんな最期を誰と、どのように迎えるか、といった「ヒト」や「コト」に、男女ともに興味があることが伺われます。
また、左下の表からは現在「単独

世帯」が、「夫婦と子供から成る世帯」を抜き一番多いことがわかります。同調査では、65歳以上の男性の10人に1人、女性の5人に1人が一人暮らしをしているという結果も出ています。
だからこそ、自分の想いはエンディングノート（4頁）などで、伝えられるよう備えておきたいですね。（堀）

※参加者 44 名中 40 名回答（うち男 10 名 女 30 名）

世帯の家族類型別一般世帯の割合の推移 全国（平成7年～22年）



（注）平成 22 年国勢調査では世帯の家族類型における分類の定義を変更している。
平成 7 年から 17 年までの数値は、新分類区分による遡及集計結果（平成 22 年国勢調査の分類区分で遡及した結果。）による。
出典：平成 22 年 国勢調査最終報告書